

夢

追

い

人

～女性杜氏を目指す～

未永く愛される商品開発を進めていきたい



若波酒造(名)

今村友香さん



今月スポットを当てるのは、若波酒造(名)で女性杜氏を目指している、今村友香さん(二六)。杜氏(とうじ)とは、酒造蔵で酒を醸造する職人の長であり、酒仕込みの全責任を負う存在。昨年の夏から日本酒造組合中央会の主催する杜氏養成コースで、仕事の傍ら、理論、実技の両面で勉強を続けている。

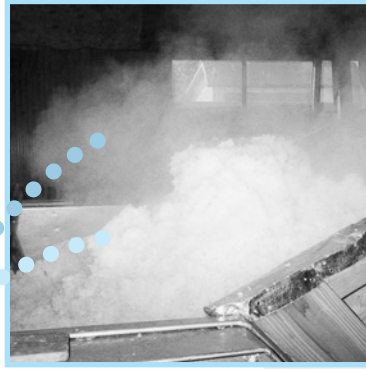
最近、女性杜氏を主人公にした週刊誌の連載マンガや朝のTVドラマが話題をよんだが、女性杜氏は非常に少ない。杜氏の資格をもつ女性は全国で十数人いるといわれる。この中で、実際に女性が杜氏をしているのは、広島市の酒造

会社につとめる一人のみで狭き門である。

では、友香さんはなぜ杜氏を志すようになったのだろうか。

「一つには経営者であり、また酒造りにも従事していた父の存在があったと思います。また京都で大学時代を過ごす間に、日本の文化に触れる機会が多かったように思います。歌舞伎の南座でバイトをしたり、着物の着付けの免許を取ったり…。それに家から離れて、家業を客観的にみれるようになり、酒造りに興味を持つようになりました。酒蔵独特の味や香りを左右する杜氏の仕事はとても面白いと思います。」なるほど。ところで若波酒造のお酒は、どんな特色があるのだろうか。「全体的に甘口で、後味がすっきりしていて、のどごしが良いことでしょうか。(笑)」

来年は取引のある豆腐料理店「梅の花」のロサンゼルス進出にもない、現地の人たちにも若波のお酒に親しんでいただけるそうだ。



若波のできあがり



おすすめのお酒
蜻蛉(とんぼ)

さて、おすすめのお酒を聞いてみた。すると蜻蛉(とんぼ)という答えが返ってきた。もちろんお酒の名前である。「蜻蛉は、純米酒よりさらに米を磨いた『特別純米酒』で、麴米に山田錦、掛米にはレイホウを、そして仕込み水には、日本名水百選・阿蘇の白川水源水を使っています。添加物も一切使用していません。」

まさに原材料にこだわった逸品といえそう。常温でもすっきりした飲み口で、冷やも格別だそう。特に女性に人気がある。値段は七二〇ミリリットル一三〇〇円。

友香さんは企画にも携わっている。昨年の太宰府での展示会では、「飲みくらベセット」を出品。大川の名所写真をデザインしたパックに蜻蛉、蒲公英(たんぽぽ)、上撰若波の三本が入っている。人気を博しているそうだ。

ラベルのデザイン、ネーミングも手がけている。

では、将来杜氏としてどんな酒造りを目指すのだろうか。「シェアの拡大にはそれほ

ど関心はありません。お酒は嗜好品ですから若波のお酒にこだわりを持って下さるお客様と未永くおつきあいできるようにしたいですね。もっとも伝統の味を基本に、その延長線上で新しい商品開発は進めていきたいと思っています。」
「どんなお酒だろうか。ここやかに答えて下さった。」
「疲れたときに癒されるとっておきのお酒とでも言いましょうか。(笑)」



「飲みくらベセット」

